

日本地球掘削科学コンソーシアム 2007年度会員総会
議事録

日時：2007年4月8日（日） PM14：00～17：00

場所：東京大学海洋研究所 講堂

総会議事次第

1. 開会挨拶（IODP部会長）
2. 議長選任
3. 議事次第確認
4. 2006年度活動報告（IODP部会事務局・陸上掘削部会事務局）
5. 2006年度決算報告・承認（コンソーシアム事務局・監査役）
6. J-DESC会長選任・承認（J-DESC理事会・コンソーシアム事務局）
7. J-DESC新会長挨拶
8. IODP部会部会長の選任・承認（J-DESC理事会・コンソーシアム事務局）
9. IODP部会新部会長挨拶
10. 役員任期の変更（J-DESC理事会・コンソーシアム事務局）
 - （1）J-DESC役員
 - （2）IODP部会役員
 - （3）陸上掘削部会役員
11. その他の役員選任（J-DESC理事会・コンソーシアム事務局）
 - （1）J-DESC理事
 - （2）IODP部会幹事
 - （3）陸上掘削部会幹事
12. 2007年度活動方針について（IODP部会長補佐・陸上掘削部会長）
13. 2007年度予算案提案・承認（コンソーシアム事務局）
14. その他
 - （1）IODP-MI理事の推薦（IODP部会幹事会・IODP部会事務局）
 - （2）J-DESC法人化WG報告（徳山WG長・IODP部会長・陸上掘削部会長）
 - （3）IODP乗船研究者アンケートの結果報告（IODP部会執行部会）
 - （4）その他
15. 議長解任
16. 閉会挨拶（陸上掘削部会長）

配布資料

- | | |
|-----|---------------------|
| 資料1 | コンソーシアム2006年度活動報告 |
| 資料2 | IODP部会2006年度活動報告 |
| 資料3 | 陸上掘削部会2006年度活動報告 |
| 資料4 | 2006年度収支決算報告・会計監査報告 |
| 資料5 | コンソーシアム規約改正（案） |
| 資料6 | IODP部会規約改正（案） |
| 資料7 | IODP部会2007年度活動方針（案） |
| 資料8 | 陸上掘削部会2007年度活動方針（案） |
| 資料9 | 陸上掘削部会規約改正（案） |

資料10 2007年度執行体制（案）

資料11 2007年度収支予算（案）

議事録

1. 開会挨拶（IODP部会長）

IODP部会鈴木部会長から開会の挨拶があった。

- ・今年、「ちきゅう」が本格的に活動する記念すべき年になる。いろんな関係機関と協力し、成功させるようJ-DESCとしても改革・改善を努める。また現状をさらに発展させるために、この総会で挙げられている案件を審議し、今後につながる結果を期待する。

2. 議長選任

出席者している正会員の中から議長の立候補者を求められたが、いらっしゃらなかったため、事務局から信州大学の保柳氏が推薦され拍手で了承された。また、事務局から今回の総会が出席正会員17機関、委任状15機関、合計32機関と正会員過半数以上の参加となり、総会が成立することが報告された。

議長から総会での承認事項について、会議をスムーズに進行するために挙手を数える事はせず、異議がある場合には申し出て頂くよう説明された。

3. 議事次第確認

議事次第（案）が拍手によって承認された。

4. 2006年度活動報告（IODP部会事務局・陸上掘削部会事務局）

資料1と2に基づき事務局により2006年度のJ-DESC活動報告及び2006年度のIODP部会活動報告が報告された。

（質疑応答・補足説明）

北里：会員提案型について補足になりますが、2006年度に提出された上半期9件のうち1件辞退が出てしまいました。採択された経費の3割しか旅費に使えないため、採択された額が小額だとワークショップ開催等では旅費に使用できないとなると、使い切れなくなるという経費の使い勝手が悪いところがある。そのため下半期では7割を旅費として使えるように対応したところ割と大きなワークショップを開催することができるようになりました。今年度は新執行部会に出来るだけフレキシブルに使用できるように提案しました。また、総額は240万円だが提案数により1件につき20万円、30万円と小額になります。そのため会員提案型に全て依存する発想を持って提案するのではなく、一部を賄う、つまりマッチングファンドを持ち、自助努力を考えた上で提案して頂きたいと思います。

続いて資料3に基づき陸上掘削部会浦辺部会長より2006年度陸上掘削部会報告が報告された。

- ・第2回陸上掘削研究に関する情報交換会を5月22日（火）17時～20時に開催する。

- ・ 質疑がなかったため、議長からの指名で総会に出席されている井龍氏に ICDP ワークショップの報告が求められた。

井龍：COREF Project は沖縄のサンゴ礁とその沖合の堆積物を陸上と海洋掘削で採取し、それをつなぎ合わせて第四紀気候変動に対するサンゴ礁の応答を時間的・空間的に解明する計画です。海洋掘削は松田先生、陸上掘削は井龍が担当して推進しています。昨年提出した ICDP プロポーザルが採択され、今年1月15～19日にワークショップを開催しました。最初の2日間は沖縄南部中部を巡検し、その後は GODAC（国際海洋環境情報センター）において議論をしました。海外から8名、日本から16名、合計24名の参加者があり、その3日間は朝から晩まで COREF Project の科学面および今後の推進体制について議論し、おかげ様で実りある会議を持てました。

- ・ 議長により IODP を含めた 2006 年度活動報告についての補足報告が求められた。

阿波根：USIO の来年度運行予算が厳しいため、予定していた航海が変更する可能性がでてきました。その一つは、総会資料「修正/追加」にありますように、NanTroSEIZE Subduction と Kumano が統合し、Observatory は実施しないということになっております。Equatorial Pacific も当初11月に予定されていましたが、USIO の SODV（JOIDES の改造船）が最初に NanTro に入り、その後 Equatorial Pacific に入る予定になりました。

議長：私は New Jersey の航海に参加することになりましたが、MSP のプラットホームになり、リグの事故があったため、逆に少し大きめのリグになりました。最初は onshore だけでしたが、offshore でもできるようになり、何人か若い人を中心に onshore が6月、7月から日本からも参加するようになりました。
その他、陸上も合わせ何かご意見ございませんでしょうか？

石井：去年の総会の際にも話しに出しましたが、日本には陸上掘削が盛んな時があったが、その時の資料がどの程度あるのか、あるいは捨てるような状況だったら、それを確保しておく必要があると思います。また今現在進行中の陸上掘削の中で、純粋な陸上掘削目的でなくても科学的に応用できそうならそれらに協力していくことも手かと思えます。この2点についてどうでしょうか。

角井：地質情報統合より集中におこなう。かつてのものを出来るだけ収集しようとはしているがなかなか難しい状況です。ある程度過去に遡った情報の収集は今後も地質調査総合センターの仕事としてやっていく。現在掘削中のボーリング試料については、地調の研究でやっているものがある。
連合大会の情報交換会でこういうボーリングがあるというようなことを各機関からご報告いただきたい。

徐：いろんなところが持っている試料をどうお互い保管するかという問題、また同時にその試料があるということを情報として周知させるメカニズムがかなり必要になってくると思います。それは、J-DESC が旗を振って声をかけていかないといけないと思います。どこに試料が保管されており、それが使えるものかどうかを一瞬に会員に分かるようにするのは非常に大事だと思います。

議長：サイトサーベイのデータがどこにあるのかなかなか分からない状況でずっと課題になっているとは思いますが、試料がどういう状態かどうい状態なら使えるのかデータベースとして情報交換し、連合大会を含めコミュニケーションを図って進めていってほしいと思います。

2006 年度活動報告は拍手により了承された。

5. 2006年度決算報告・承認（コンソーシアム事務局・監査役）

事務局より資料4に基づき、2006年度決算報告が報告された。

- ・ 昨年度は、正会員 46 機関、個人会員が一昨年度より 1 名増えて 13 会員、賛助会員が 21 会員、これら会員からの会費収入が約 670 万円。
- ・ 前年度繰越金 約 710 万円を加えた昨年度の収入合計は、約 1380 万円。ここから昨年度は約 640 万円が支出され、今年度に繰り越された繰越金は、約 740 万円。

続いて宮下監査役から資料5に基づき、会計監査結果について、コンソーシアムの会計執行が適切に行われていたことが報告された。また、会員提案型経費がより使いやすくなることが重要であるという意見が述べられた。

（質疑応答）

浦辺：当初予算と決算で前年度繰越金が同じになっている。決算はこれでいいと思いますが、当初予算が1円単位まで入っているのは、書き方の問題だと思いますが、どこを当初予算としているのか分からない。

議長：前年度に繰越金が決まっているのでは。

徐：繰越金が予算に入っているのはおかしい。

浦辺：書き方の問題だと思いますが、共通経費の予備費次年度繰越金の 5,234,361 円は何なのか。この繰越金と次年度繰越金の関係が良く分からない。

宮下：全部足したときに収入の 1383 万円をあわせるために 523 万円については次年度繰越ということで予算を出すということになっている。書き方が適切かどうかは分かりませんが。

議長：予備費を使わなかった場合は全部繰越となる。支出の部分のところに次年度繰越がきてそれをつかわないと来年度繰越金となる。
次年度繰越金を予備費に記載修正。

徐：繰越金と昨年度決算額を比べると繰越金が多くなっているため、何か会員に還元していくことがないと、この表だけ見ると不健全な感じがする。

鈴木：今年の予算だけみるとあまり出費してないが、前年度に比べると相当出費している。言い方を変えると今年は収入に似合った活動をしている。今後は余剰金を活用し、発展していきたいが、単年度で見るとこういう支出での活動という理解をして頂きたい。

議長：陸上掘削部会の旅費が執行されていないですが大丈夫でしょうか？こういったところを含めて来年度は適切に執行していただきたい。

松田：予備費に単純化するなら決算は0円にしなければならないですね。

その他異議がなかったため決算報告は拍手により承認された。

6. J-DESC 会長選任・承認

事務局からJ-DESC会長の選任について説明がなされた。

- ・ 会長が辞任を希望しており、後任として斎藤靖二氏が推薦され、理事会で選任されたことが説明された。

拍手により斎藤氏が新会長として承認された。

7. J-DESC 新会長挨拶

斎藤新会長から挨拶があった。

- ・ 予想外でしたが、石原会長のあとを引き継ぐことになりました。予算をみても恵まれている状況ではありませんが、これまでやってこられた成果を外にアピールするお手伝いをしていければと思っております。地球掘削は宇宙へとびだすのに匹敵する大きな仕事ですが、宇宙と比べると地味に見えるせいか世間から認められているわけではありません。しかし、新しい情報がでてきて、新しいサイエンスの創造につながる面白い仕事だと思います。消費型社会のなかでサイエンスも教育も商品化してしまい、自分にメリットがないと価値がないかようになってしまいました。知の創造、その成果は国のものでも個人、大学、誰のものでもなく、人類共有の財産だと思います。こういう計画に参加して、将来の世代の財産として検証し、そのことを次世代にみせていくのが大事なことだと思います。この計画は10年先20年先に続くもので、どの世代まで面白さを伝えることができるか、やってきたことを持続し、さらに継承していくことがもっとも重要

なことだと思えます。なんらかの部分でお役に立てるように努力したいと思えますので、よろしく願いいたします。

8. IODP 部会長の選任・承認

標記の件について事務局から説明がなされた。

- ・ 冒頭でご挨拶して頂いた IODP 部会長がご退任を希望されました。NanTro が始まり、IODP 部会でも体制を一新する必要があるとのこと。ご後任として部会の推薦により、東京大学の川幡穂高氏が理事会で選任されております。川幡氏の IODP 部会長就任のご承認を御願い致します。

拍手により川幡氏が IODP 部会長として承認された、

9. IODP 新部会長挨拶

川幡新部会長から挨拶があった。

- ・ 突然でまだ J-DESC・IODP の仕事をきちんと把握していませんが、新しい執行部の方々と良くしていきたいと思えます。以下の 3 つの件について新執行部で行っていく予定です。
 1. 10 年以上にわたって安定して活動するため、また事務処理を軽減するためにマニュアルを作成する。
 2. J-DESC が意思決定していく能力を高める。
 3. 出資機関へ利益の還元をする。
- ・ 今回から 3 年から 2 年への任期変更ということで、2 年経ったらバトンタッチできるように 1 年 5 ヶ月ぐらいでルーチン化し、後の半年はルーチン化したシステムを試す。
- ・ 研究者の多くいる機関、JAMSTEC と AIST から 2 名ずつ組織として執行部員をだしてもらおう。
- ・ 来週から始め、夏頃には短期間の仕事(課題)を終えたい。

10. 役員任期の変更 (J-DESC 理事会・コンソーシアム事務局)

事務局より J-DESC・IODP 部会・陸上掘削部会の役員任期について説明がなされた。

- ・ J-DESC 役員は現在 3 年だが新会長就任につき 2 年の条件が出され、また 3 年は長いという意見があり、各役員の任期を 3 年から 2 年に変更する変更案が理事会で作成された。

(質疑応答)

石井：提案の前半趣旨は分かったが後半趣旨、再任を妨げないものとするということは何回やっても良いということか？

鈴木：IODP 執行部で議論したが、実際に委員を派遣しているが人材が足りない。そのため、繰り返し出来なくなるというのを作るとまずいので、趣旨としては再選しないでもいい人にして欲しい。

議長：特別な場合があるため、任期は短くするが、引継ぎがうまくいかず運営が断片するリスクを減らしたということですね。

役員任期の変更について拍手により承認された。

11. その他の役員選任(J-DESC 理事会・コンソーシアム事務局)

J-DESC理事・IODP部会幹事・陸上掘削部会幹事選任について事務局から説明がなされた。

- ・事務局の不手際により 2006 年度に役員選任手続をしなかったため、J-DESC 理事と宮下監査役は 3 年の任期を 4 年間勤めて頂いていることとなります。そのため 2006 年度で再任されたという形をとらせて頂き、2 年任期を適用して 2007 年度までの就任とさせて頂きたいと思っております。
- ・理事会は 1 機関を除いて再任のご了承を頂いております。1 機関は京都大の嶋本氏が広島大に移動するため同大学の社会基盤の山田氏に参加して頂くことになりました。
- ・また、IODP 部会幹事会は 2006 年度をもって任期が満了となりました。幹事会及び理事会から再任を了承して頂いております。先の理事の変更に伴い、京都大が変更となっております。

小玉：部会幹事の 2007 年度の安田先生（高知大）から小玉一人に変更を御願いたします。

その他の役員選任が拍手によって承認された。

12. 2007 年度活動方針について

資料 7 に基づき、阿波根IODP部会長補佐よりIODP部会の活動計画の報告がなされた。

- ・乗船研究者の今年度中の募集は Bering Sea 及び NanTro Stage 2 の予定。
- ・今後の課題として、プロポーザルの促進・育成に向けた取り組み、次の ISP (initial science plan) の改定に向けた国内における対応。

(質疑応答)

松田：シンポジウム開催の活動計画があがっていないが、予算は計上されています。去年もそうだったが、計画がされていないのに予算があがっているのに違和感があります。

阿波根：J-DESC 共通としてシンポジウム開催は検討していきたいが、具体的なものはこれから新執行部で考えていく予定です。

議長：希望や案があれば、活動に取り入れられると思います。

阿波根：会員機関からは是非こういうことをやっていきたいということがあれば執行部にお知らせください。

議長：国際パネルへの対応は計画通りにいっているでしょうか。

阿波根：現状では、個人的に任期を変えるなどはありませんが、パネル自体はスムーズに進行しています。IODP-MI でパネルの改革に向けた動きが少しあるので、将来的にはパネルの活動に関して違う動きがある可能性はあります。

川幡：国際パネル、執行部、部会がうまくリンクするようにして下さいという意見がありましたので、国際パネルを主にすると考えて新執行部員をその中から選びました。

浦辺：活動報告の中で IODP プロポーザルの新規一件の提案には J-DESC の IODP 部会は係わったのでしょうか？

阿波根：詳細は把握していないが、サイトサーベイについて情報が得にくいなど、調整がうまくいっていなかった部分があると思います。

鈴木：プロポーザルは IODP の目標です。IODP 国内科学計画委員会を通じて 1000 万円の支援がありました。CDP 関連プロポーザルの制限があったが、今年度は制限をはずして 4 つの ISP に関連した多くのプロポーザルについて広く支援していくため、努力していく。

引き続き、資料 8 に基づき、浦辺陸上掘削部会長より今年度活動計画について説明がなされた。

- ・ 陸上も IODP 同様に任期を 3 年から 2 年にする。
- ・ 情報交換会を 5 月 22 日（火）17 時から 20 時まで 3 時間予定。
- ・ 井龍氏が 1 月にやった WS は 30 万円計上していたが自助努力で処理して頂いた。
- ・ ICDP と IODP 両方の提案の境目がなくなっているため、多くのことが共通の問題意識の中で WS を開催する。
- ・ 日本人が主導したものは雲仙以外の掘削計画はなく、掘削計画を立てていくには、予算獲得が大きな壁となる。WS をやったあとにお金の問題があり続かない。そのあたりが陸の宿命でもありますが、皆さんにぜひ理解して頂き実現していきたい。例えば、湖沼掘削のプロポーザルは今年是非お願いしていたが、WS のプロポーザルがでなかった。一方、イギリスで予算をとり ICDP から独立した予算を獲得できた。そういう方々を支援し、有望なプロポーザルを作成していきたい。また、ICDP では、プロポーザルを抱えた方に対し、テクニカルアドバイスをしているため、当選率の高いものとなっている。
- ・ 掘削計画を作りたいが事務局が IODP 部会ほどしっかりしていないため、情報について課題がある。
- ・ 情報は AIST が組織として集めてくれるが、科学掘削としては難しい。J-DESC を中心に

活動を通じてプレゼンスを高め社会に対してアピールしていきたい。

- ・ 情報交換会のプログラムが決まり次第メールでお知らせする。

(質疑応答)

議長：湖沼掘削は新たな進展はないでしょうか。地球温暖化・海水準変動に関連した取り組みとしては何かありますか？

浦辺：ICDPでは気候変動は全世界的にやっていく必要がある。日本から地球物理は藤井氏、地質は荒井氏がSAGにでていますがSAGの下にlake drilling SAS コミュニティーがあります。日本から中川氏を推薦して了承されました。ICDPは湖に浮かべる掘削リグを持っているので、日本で掘削プロポーザルを出せばそれをもっていけますので、Lake drilling についてもプロポーザルを出して頂きたい。

2007年度活動方針IODP及び陸上掘削活動計画が拍手により承認された。

13. 2007 年度予算案提案・承認(コンソーシアム事務局)

資料 11 に基づき、事務局より 2007 年度予算案提案の説明がなされた。

- ・ 新執行部会により、予算の使い方に関して多少変更が検討されているためこの予算案は後ほど変更になる可能性がある。その際は会員総会をメールで開催し、新しい予算案を承認していただくことになる。

議長：予算案は先ほどと同じように前年度繰越は予備費とし、広報活動費のコンソーシアム共通は削除とします。

(質疑応答)

浦辺：IODP 部会の予算が見直すという方針はいいことだと思います。またメールで承認することになるとは思いますが、だいたいどういう方針が決まってくるのかちょっとした話で結構です、判断の基準となるとは思いますので、お聞きしたいと思います。

川幡：具体的に足りないのは執行部会活動経費旅費です。積算だと交通費に人数日にちかけて 0.7 をかけても数十万円多くなるでしょう。合同学会では単年度でいくと赤字になるような予算の組み方は、法人化する場合良くないという指摘を頂きました。陸上部会での議論となりますが、数十万円多くなった場合は、例えば、広報活動費の J-DESC NEWS が 2 年間で 4 回が 3 回になるという可能性等があります。

2007年度予算案が拍手により承認された。

14. その他

(1) IODP-MI 理事の推薦

標記の件について事務局から説明がなされた。

- ・ 異 SASEC 委員 (JAMSTEC) が 6 月 SASEC 会議後に IODP-MI 理事に就任することが内定しており、J-DESC において異委員の推薦をお願い致します。

異委員の IODP-MI 理事への推薦が拍手によって承認された。

(2) J-DESC 法人化 WG 報告

徳山WG長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 活動は停止しており、決算報告にもあるように予定されていた金額はまったく使用していません。J-DESC 発足の際に自立した組織になることがあげられ、予算的にも自立した組織にしようとするのが始まりでした。一つは J-DESC が直接研究費等を MEXT から受け取り、出版・コンサルティングという独自の活動で資金を得ることができるのではないかと、ということで法人化プランが開始されました。研究費については、時限付科学研究費細目として、地球システム変動等が通ったと聞きました。ということで、自己努力で研究費がまかなえるという一面もある。JAMSTEC が法人化のアクションに対して次期早々ということもあり、1000 万円の研究費、今年度からフレキシブルに使用してもいいということになり予算的にどうにか最低限の目安がつくかということになった。このため、この時期に法人化して何かメリットがあるかと意見を聞くと、もう少し待った方がいいということでした。予算に計上したのは、ファイナルゴールとして残していき、活動を続けていけるようにしたい。

(3) IODP 乗船アンケートの結果報告

IODP乗船アンケート結果とIODP研究航海の問題点についてIODP執行部員海野氏から以下のような説明があった。

- ・ 乗船者と主席研究者にアンケートを行った。各研究航海で 4 人ないしは 8 人、若手から中堅の研究者中心という構成。
- ・ 28%が研究航海自体初めて。
- ・ 乗船者の研究航海経験が少ない・研究スキル(コアの記載など)が不足している。
- ・ こういう人たちの過半数は J-DESC 関係者から乗船を頼まれた。
- ・ 初心者が多いということから、渡航の手続きに関する問題が良く発生しているが、IODP になってから ODP の時とはシステムが変わったため、分かりにくい (日程がころころ変わる。情報伝達が遅い。旅費が出るのか出ないのか誰に聞けばいいのか分からないという問題が非常に多かった)。
- ・ 乗船研究者の責務については、過半数は理解しているが半数近くが良く分かっていない。
- ・ 乗船中のサンプリングについては問題ないものの、下船後のサンプリングでトラブルが発生している。
- ・ 事前に主席研究者・スタッフサイエンティストと乗船者が調整しておけばよいが、うまくいっていない。

- ・ 責務については web に掲載しているが、英語のマニュアルのため若手研究者や学生には日本語で解説またはレクチャーすることが大切。
- ・ 研究費付きの乗船研究者を制度化
 1. 個々の研究者で関心を高める。
 2. 適切な情報提供を行う。出来ればまったく初心者の人が相談できるような窓口を設けるなど。
 3. スキルの未熟な学生への指導体制の確保。
 4. 研究費の確保。

(質疑応答)

石井：健康問題は船酔いのことですが、それともその他のことでしょうか？

海野：内容については分かりません。エアコンの強さなどが上げられています。

石井：若手に問題があったということですが、修士、ドクター、その他でどこに一番問題があったのでしょうか？

海野：実際は修士だがそれだけではなく、人柄（周りとうまくいかない）などでトラブルがあったようです。

石井：生まれて初めて乗ったという人がどのくらいいたのですか？

海野：28%

石井：他の船に乗ったことがあるのはどのくらいですか？

海野：国内の研究船が 38%、海外の研究船が 17%。

石井：トラブルは 28%に集中しているとかあるのでしょうか。もしそうなら、JAMSTEC にある船を体験乗船に活用するとか出来るのでは？

海野：若手の学生にトラブルがあったというのが多い。

井龍：基本的に要望なのですが、人選をして乗船者リストをあげるのは専門部会なのですが、専門部会にはもう少し CV や業績リストを詳しくみてほしいと思います。サイエンスの成果は論文として公表することが義務なので、論文リストが貧弱な人は科学の目的が違ってしまうように思われます。論文を書かない人が乗船してもらっては困ります。これを理解していただき、よりよい人選をして頂きたい。いろんな航海を見ていて思いますが、これは非常に重要なことだと思います。新執行部には、乗船研究者の科学的

成果の追跡をやってほしいと思います。IODP の中では日本人の印象が低い。

海野：Exp.309 でもそうだったが、問題があったのは日本人だけではなく、欧米人も含みます。1 位でアメリカから推薦されてきたが船の上で何もせずに NFS の申請書を書いていた。

井龍：Exp.310 でも同じような人がいました。

議長：今のような意見を参考にして御願ひ致します。

浦辺：アンケート結果を HP に差し支えない程度で載せて頂いた方がいい。

北里：アンケートにあった乗船後研究費に関係あるが、高知コアセンターは大変充実している。本来は掘削科学に関連する研究者が試料を持ってきて使える。まだ利用率が低いので積極的に使ってほしい。

(4) その他

- 「海洋底調査の基本」進捗状況について安間氏から以下のような報告がなされた。
 - ・ 海洋底調査の基本ということで、ご協力をお願いした。その結果、専門部会から 9 割の原稿が集まっている。これから編集し、今年度中の出版を目指す。

- 事務局から国際パネルローテーションルールについて説明があった。
 - ・ 昨年度の執行部会が中心になって作成した国際パネルローテーションルールになり、国際パネルそれぞれの任期に応じた議長・委員・alternate 等の選出方法について具体的にルール化したものになる。今後 SAS 構造も変更していくので柔軟にルールも対応させていきたい。

- 事務局から IODP 掘削プロポーザル支援について説明があった。
 - ・ IODP 掘削プロポーザル支援(年間 1,000 万円上限)。昨年度はちきゅうを利用した CDP 限定で募集したが、応募状況を鑑み、米国・欧州の掘削船を使用したプロポーザルも対象とし、募集を近日開始予定。

- 石橋氏から 5 月に開催される連合大会・IODP 成果報告会について説明がなされた。
 - ・ J-DESC から地球掘削科学セッションを提案しました。
 - ・ 目的として、成果の発表、技術開発、データベースの開発の成果など、掘削科学の推進に関連した直接サイエンスでない成果を広く発表する場を提供。掘削科学進展を他分野の方に広めるため。
 - ・ 今年度は第 1 回でオーラル発表 7 件、ポスター発表 4 件のご講演提案を頂いてセッションが成立した。オーラル 24 日午前、ポスター 2 3 日夜。参加して頂きセッションをも

りあげて来年から盛り上げていきたい。

- ・ IODP 成果報告会は連合大会の翌日に東大海洋研で開催。本当は若手内輪ではない人へ成果を報告、航海の様子などを報告する場として開く。Exp.307 と Exp.310 を中心に南海トラフなどを計画している。

● MEXT から挨拶があった

宿利：昨年 8 月前任田中の後任で総会は初めて出席となります。深海陸上どちらもすばらしい科学をめざして設立された J-DESC は、IODP が立ち上がってから手探りの部分もあったことと思いますが、これまでの皆様方のご尽力により発展されてこられたものと思います。いよいよ、日本が造った「ちきゅう」の国際運用が熊野灘で開始され、来年から SODV も熊野灘に参加するということで国内国外注目が集まる時期だと思っております。ISP の改定もあり今後 J-DESC の活発な活動がますます重要になると考えます。MEXT としてもできる限りを尽くしていくつもりですが、先生方からもご支援いただくことで私どもも動きやすくなると考えており、どうかよろしく御願ひ致します。宮崎係長の後任として戸谷が参りました。

戸谷：国土交通省から参りました。この分野は初めてですが、南海トラフ掘削を開始するという重要な年よりこのプロジェクトに関わることとなり、責任を感じています。どうぞよろしく御願ひいたします。

15. 議長解任

拍手により保柳議長が解任された。

16. 閉会挨拶（陸上掘削部会長）

浦辺陸上掘削部会長より閉会の挨拶があった。

- ・ 今回鈴木先生が交代されるということで拍手をもって報いたいと思います。

事務局（加賀谷）から鈴木前部会長に記念品が渡された。

別紙資料

出席者リスト

(1) 正会員機関〈17 機関〉

北海道大学 大学院理学研究科
東北大学 大学院理学研究科
筑波大学 大学院生命環境科学研究科
産業技術総合研究所 地質研究部門
防災科学技術研究所
東京大学 大学院理学系研究科
東京大学 海洋研究所
東京大学 地震研究所
海洋研究開発機構 地球内部変動センター (IFREE)
新潟大学 理学部/大学院自然科学研究科
信州大学 理学部
静岡大学 理学部地質学教室
京都大学 大学院工学研究科社会基盤工学専攻
神戸大学 理学部地球惑星科学科
高知大学 海洋コア総合研究センター
九州大学 大学院理学研究院地球惑星科学部門
熊本大学 理学部

(2) 委任状〈15 機関〉

北見工業大学 未利用エネルギー研究センター
秋田大学 工学資源学部応用地球科学教室
産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門
Micropaleontological Reference Center 国立科学博物館/宇都宮大学
情報・システム研究機構 国立極地研究所 地学研究部門
千葉大学 理学部地球科学科
海洋研究開発機構 極限環境生物圏研究センター (XBR)
富山大学 理学部
東海大学 海洋学部
京都大学 大学院理学研究科地球惑星科学専攻
同志社大学 工学部環境システム学科
島根大学
広島大学 大学院理学研究科地球惑星システム学専攻
岡山理科大学
岡山大学 理学部地球科学科